診療科
血液内科

疾患名
多発性骨髄腫

レジメ名
DLd療法(7コース以降)

投与間隔
1コース 4週間 計 コース

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日				
						day1	day2	day8~14	day15~21	day22~28
ダラキューロ	ダラツムマブ		800mg/body/day	sc	3-5分	●				
レブラミド	レナリドミド	LEN	25mg/body/day	po		←day1~21連日投与→				
レナデックス	デキサメタゾン	DEX	20mg/body/day	po	注1	●	●	●	●	●

備 考 薬価: ダラキューロ 800mg 434,209 円

- 注1: 再発難治例ではday1,2はレナデックス20mgの経口投与とし、またday8~14,15~21,22~28中のいずれか1日でレナデックス40mgの内服を行う。初発例ではday1,8,15,22はレナデックス40mgの経口投与とする。75歳超またはBMI<18.5kg/m²例ではday1,8,15,22のレナデックス20mg経口投与のみに省略可。
- レブラミドは毒性に応じて15mg、10mg、5mgに調整。Ccr 30~60mL/min例(再発難治例)、Ccr 30~50mL/min例(初発例)では当初から10mgに減量。Day1はダラキューロ投与前または同時に投与。
- infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1~3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までにカロナール900mgを内服し、レナデックス、ポララミン5mgを内服する。
- 気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポララミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β₂アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β₂アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイドの事後投与)が考慮される。
- ダラキューロ投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラキューロ投与翌日にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。

登録年月日
2020年 2月 7日

登録No.
No. 474-3